

さぶさわ さぶさわ あたご
寒沢遺跡・寒沢古墳群・愛宕古墳群—小櫃川左岸に脈々と続いた古墳群—

寒沢遺跡・寒沢古墳群・愛宕古墳群は、永吉地区に所在する東京ドイツ村のすぐ南、標高約75～83mの北に延びる台地に位置します。ゴルフ場建設に伴い、平成元年から平成6年にかけて発掘調査が行われました。寒沢遺跡からは弥生時代後期から古墳時代前期（今から約1,600～1,900年前）の集落を発見し、寒沢古墳群は確認されている16基の古墳の中の8基（円墳（円形の古墳）5基、方墳（四角形の古墳）3基）、愛宕古墳群は確認されている10基の古墳の中の8基（円墳6基、方墳2基）の発掘調査を行いました。

発掘調査を行った古墳の内、寒沢古墳群は出土遺物が少なく時期の判断が困難でありましたが、愛宕古墳群の古墳は、古墳時代前期（今から約1,600年前）のものが2基（方墳2基）、古墳時代中期（今から約1,500年前）のものが5基（円墳5基）、古墳時代後期（今から約1,400年前）のものが1基（円墳1基）と特定の時代に限らずに継続して造られていたことがわかりました。

前期の愛宕古墳群4号墳では、主体部（被葬者の埋葬場所）から鉄剣やガラス玉などが、周溝（古墳の外側を廻る溝）から底部穿孔土器（壺の底にわざと穴をあけた特殊な土器）等の土器がまとまって見つかりました。中期の愛宕古墳群3号墳では、主体部から鉄剣や白玉（細い管を輪切りにした形状の石製の玉）、石製模造品（剣や円盤型に加工された石）、壺などの土器などが見つかりました。石製模造品は主体部中でも、割れて離れた場所から見つかり、壺は形がわからなくなるまで砕かれていました。埋葬行為に伴う何らかの儀礼が行われていたものと考えられますは、



寒沢遺跡・愛宕古墳群
調査の様子（円形や方形の溝が古墳）



愛宕古墳群 4号墳
土器出土時の状況
(周溝内からの出土)



愛宕古墳群 4号墳
出土土器
(古墳時代前期)



愛宕古墳群出土
ガラス玉等
(古墳時代中期)